

攻撃は、最大の防御

日本塗装技術協会 会長
芝浦工業大学 教授

今井 八郎

最近のスポーツ選手は、我々還暦世代が若いときの内弁慶型から脱して、世界を舞台に伸び伸びとパフォーマンスをし、各方面で素晴らしい成績をのこしている。アテネオリンピックのメダルラッシュをはじめとして、つい最近ドイツで行われたサッカーのコンフェデレーションカップでの日本選手の活躍には目を見張るものがあった。中田選手、中村選手を筆頭に個人技の素晴らしさと同時に積極的な攻撃力が素晴らしかった。記憶に新しいが柳沢選手、玉田選手、小笠原選手、後半に出場してことごとくゴールをあげた大黒選手など全員で次期ワールドカップ予選を勝ち取った。どうしても“守りのサッカー”になりがちな日本のサッカーは、点をとるのが下手だった。ドーハの悲劇で味わったあのあまりにも強いショックが、積極的なサッカーを展開して防御を忘れることへの恐れを生じさせて、いまひとつフィニッシュにさえがみられなかった。ボールゲームでは、守っているだけでは、守りが完璧であっても、引き分けこそあれ、決して勝たないのです。勝つためには少しの危険をおかしても攻撃して得点しなければなりません。コンフェデカップのジーコジャパンに拍手をおくりたい。中北米代表のメキシコには敗れたがヨーロッパチャンピオンのギリシャには勝ち、前回のワールドカップの王者ブラジルには見事な攻撃型サッカーで2:2で引き分けた。ここ数年、日本サッカー選手の個人技が上達したことは誰もが認めることであるが、この試合では攻撃に対する積極性が防御策にもなっていた。昔からいわれ

ているように「攻撃は、最大の防御」であった。

バブル崩壊以来、企業は、とにかく経費削減、合理化および人員整理などに取り組み、一定の成果をあげてきた。企業などの発想が防御の姿勢になってい

る。「なるべく良い技術を安く」という観点での開発が行われ、それなりの成果が得られている。このことについて否定するつもりはない。さらに飛躍するには攻撃型の「性能は、とびぬけてよいが高いよ」それでも消費者が欲しがるとをめぐす。ことではないか？塗装技術も大変重要な技術であるが化学、材料および機械などの境界領域で技術者の育成は、大変難しい。どうしても攻撃型ではなく防御型をとらざるをえない。あまり例としてよくはないが、私立大学の場合について考えてみると、18才人口の漸減で就学生の確保ができない大学が年々増加している。問題解決を授業料の値引き競争に転化していることである。自信のある大学は、中味で勝負して、決して授業料の値下げはしない。適正な授業料を払っていただき、研究、教育に必要な優秀な指導者の確保および施設の提供である。決して守りにならないで積極的な施策をしている。日本塗装技術協会の代表として、なんとか攻撃型の技術発信を促進させるように努力したい。

